

# なんぷう

2009年11月1日

第15号



県立日南病院こどもスケッチ大会の様子です。今年は油津小学校の皆さんに参加していただきました。

## 目次

■ 事務局長新任あいさつ	1
■ 麻酔と緩和ケア	2
■ 地域連携コーナー (まちの病院がなくなる!? ～県南の医療を考えるシンポジウムから～)	3
■ 看護部トピックス(糖尿病看護グループです)	4
■ こんにちは! 栄養管理科です	5
■ 県立日南病院が取り組む医療安全全国共同行動	6
■ みなさんのご意見コーナー	7
■ 外来診療日程表	8
■ 第11回県立日南病院祭	9

日本医療機能評価機構(一般病院)認定病院

## 県立日南病院

〒887-0013 宮崎県日南市木山1丁目9番5号

TEL 0987-23-3111

FAX 0987-23-5142

<http://www.pref-hp.nichinan.miyazaki.jp/>

Eメール: [nichinan-hp@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:nichinan-hp@pref.miyazaki.lg.jp)

## 新任あいさつ



事務局長  
勢井 史人



この4月に、矢野前事務局長の後任として参りました勢井と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は、日南に住むのは初めてですが、生活の場として見ますと、この地域は、環境美化はもとよりお祭りやレクリエーション活動などまとまりもよく、身近に感じられます。また、仕事面では、病院はこれまで経験した行政の場と違い、患者である県民がすぐ目の前におられますので、身の引き締まる思いがしています。

県立日南病院は、御承知のように南那珂地区の中核病院であり、日常生活に密接かつ重要な役割を果たしています。

院内の資料を見ますと、当院は、昭和23年に「県立油津病院」として内科・外科の2診療科でスタートしました。その後、日南市の発足により現在の名称に変更し、2度の移転の中で規模を拡大しながら、昨年開設60年を経過しました。この60年の歴史は、病院の発展とともに地域住民の方々との信頼関係を築いてきた過程でもあったと思います。

医療は、言うまでもなく住民の安心、安全な生活を支える1つの大きな要素ですが、最近、医師をはじめ医療スタッフの不足が話題となっています。そのような中で、限られた医療資源を効果的に生かすためには、例えば身近な「かかりつけ医」と重症者に対応する「中核病院」など、地域の医療機関が役割分担をしながら、地域全体で多様化、高度化する医療需要に応えていくことが肝要です。

当院におきましても、求められる役割を的確に果たすためには、地域の他の医療機関との連携、協力を進めるとともに、住民の皆様の中核病院としての当院に対する理解を深めていただくことが大変重要だと思います。

当院では、地域の方に当院を理解していただくとともに、患者さんが快適な入院生活を送れるよう、年間を通して様々な催しを行っていま

す。その主なものとしまして、油津小学校・桜ヶ丘小学校の児童の皆さんを招いての「こどもスケッチ大会」や病院を理解していただくための展示や講演等を行う「県立日南病院祭」、入院患者さん向けの「クリスマスコンサート」などのイベントや、病院ボランティアの活動などがあります。

なお、皆様もニュースでお聞きかと思いますが、県では本年度、県立病院の今後の経営形態について検討を行っています。この議論の行方はまだ分かりませんが、私たち病院職員は、長田院長先生の指揮の下、引き続き高度で安心、安全な医療を提供できるよう、今後とも力を合わせ努力していきたいと考えていますので、御理解、御協力をお願いします。

最後に、私個人の趣味ですが、最近土いじりに興味がわいてきてまして、ベランダに、やや栄養不足の野菜、種子から育てたピワやココロ(ムベ)、百円から大きく成長したゴムの木やパキラなどを植え、住居環境の緑化に努めています。自慢できるような植物はありませんが、心に安らぎを与えてくれます。



昨年行われた県立日南病院祭の様子です。



## 麻酔と緩和ケア



麻酔科医長  
江川 久子

今回の診療科コーナーは麻酔科からお届けします。私が県立日南病院に赴任したのは平成7年4月でした。早いものでもう15年目になります。当時から麻酔科常勤医は2名で、年間約1000件(緊急約180件)の麻酔を担当しています。当初は年に100回程度大学から非常勤医師を召喚していましたが、現在は集中治療室室長にお手伝いいただき麻酔を行なっています。麻酔科医は、主に手術を受ける患者さんの周術期管理に関わっています。手術前は、検査データや病歴・生活歴などをもとに患者さんの状態を把握し、合併症や手術内容を考慮して麻酔方法を決定し、患者さんやご家族に説明して同意をいただきます。手術中は、麻酔や呼吸・循環の管理を行います。手術後は、痛みを和らげ、早期回復のお手伝いをします。手術を受けられる患者さんには、骨折などの外傷や良性疾患の患者さんもうらっしゃいますが、やはりがん患者さんとの関わる時間が一番長いと思います。

昨年10月、前任医師の転勤に伴い、地域がん診療拠点病院運営委員会の一部である緩和ケア委員会の委員長を務めることになりました。同じ年に厚労省から「がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」が出され、当院でも緩和ケア研修会を開催することになりました。県担当者との打ち合わせや指導者研修会への参加などめまぐるしい日々でしたが、6月の研修会を無事終えることができました。研修会に協力・参加して下さった皆様、本当に感謝感謝です。そして、院内での緩和ケア活動が本格的にスタートしました。

これまで当院の緩和ケアは看護師の皆さ

んを中心に行ってきましたが、今年度より医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・事務部の計22人からなる緩和ケアチームを結成しました。症例検討などを行うカンファレンスチーム(代表:原副院長、野元看護師長)、癌カンファレンスなどを開催し、知識向上に努める勉強会チーム(代表:木佐貫医長、那須看護師)、緩和ケアに関するマニュアルを作成するマニュアルチーム(代表:江川、山田看護師長)の3つに分かれて活動しています。8月から第2水曜の3時から病棟ラウンドを行っています。今後は原副院長の外来を相談窓口として依頼を受け、市成外科医長とともにスタッフ全員で緩和ケアのお手伝いをしていきます。お気軽にご相談ください。

最後に、WHOの提唱する緩和ケアの定義を示します。『緩和ケアとは、生命を脅かす疾患に伴う問題に直面する患者と家族に対し、疼痛や身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期から正確にアセスメントし解決することにより、苦痛の予防と軽減を図り、生活の質を向上させるアプローチである。』まだまだ未熟ですがよろしくお願ひします。



緩和ケアチームの皆さんです。  
(江川医長は後列右から2番目)

## 医療連携コーナー

### まちの病院がなくなる!?～県南の医療を考えるシンポジウムから～



ここ数年、夕張市立病院(北海道)や銚子市立病院(千葉県)の休止といった自治体病院をめぐる様々な問題が報道されています。当南那珂地域も例外ではないという認識から、さる10月10日に「県南の医療を考えるシンポジウム」(こどもいのちつなぐ会、日南市共催)が開催されました。このシンポジウムで「まちの病院がなくなる!? 地域医療の崩壊と再生」と題して伊関友伸(いせき・ともし)先生(埼玉城西大学経営学部准教授)の講演がありました。要旨は次のとおりです。

話題によくのぼる医師不足の原因は、いくつかの複合要因(少ない医師数、医療の高度専門化、インフォームドコンセント・医療安全への意識の高まり、女性医師の増加、劣悪な労働環境、医師の働きがいの有無、新臨床研修制度、国民の医療への不理解、健康についての不勉強な患者の存在、患者のコンビニ医療指向)が重なって起こっていると考えられる。それによって医師が集まってきて活気がある病院と医師・看護師などが集まらず衰退していく病院の二極化が起こっている。地域医療を守るためには、

- ①医師が勤務しやすい環境作り
- ②労働に対しての適切な報酬
- ③過酷すぎない勤務量
- ④充実した研究や研修体制
- ⑤医師の働きがいある病院
- ⑥医療と福祉の分離・連携
- ⑦地域で医師を育てる体制



といった取り組みが必要である。地域医療を守るためには住民もできることをしなければならない。言い換えれば住民にも責任があり「人任せ」では地域医療は崩壊する。しかし、自治体病院の危機や医師不足問題というピンチは、地域の民主主義の質を向上させるチャンスでもある。地域の(民主主義の)レベルがその地域の医療のレベルを決める。住民も医療スタッフと同じく地域医療を担う当事者であることを理解し、情報提供と住民間の議論を通じて節度ある行動をすることが望まれる。そのような取り組みで地域医療の再生ができれば民主主義の再生にもつながる。

夕張市民病院崩壊のベースには、市民の人任せといった雰囲気があったそうです。また休止に追い込まれていく多くの病院では地域住民のサポートがないようです。その一方、兵庫県立柏原病院のように地域住民の取り組みで小児科医師が全国から集まってくる地域もあります。日南串間地域では、「こどもいのちつなぐ会」の皆さんがとてもいい活動をしています。また日南市初期夜間急病センターが8月より毎日オープンとなり夜間急病の方への体制が整いつつあります。南那珂地域では、住民、行政、医療関係者がそれぞれの立場で取り組めることから取り組んでいることから、少しずつ地域医療が好転しつつあると思います。この状況を多くの市民の皆さんにも知っていただき、地域医療への関心を持っていただければうれしい限りです。

(医療連携科 木佐貴 篤)

## 看護部トピックス

### 糖尿病看護 グループです。



今回は、糖尿病看護グループの活動についてご紹介したいと思います。

私たちは、平成15年度専門領域(糖尿病看護)を受講し、平成16年度から活動をスタートしました。スタッフの転勤などもあり、今年度、新しいメンバーを加え、5名で活動しているところです。

主な活動として、週2回開催している糖尿病教室で、日常生活の留意点について、患者様、ご家族の方に指導、相談を行っています。また、院内看護師が糖尿病患者へ統一した看護を提供するために、様々なパンフレット作成や新人看護師の指導にも力を注いでいます。

活動当初は、糖尿病専門の医師が不在で、独自の活動を行っていましたが、平成18年度から、医療連携科の木佐貫先生を中心に、糖尿病勉強会がスタートしました。平成20年には糖尿病専門の村山先生も加わり、より充実した活動を行うことができるようになりました。

昨年、南那珂糖尿病ネットワーク会議がスタートし、約1年かけて「糖尿病地域連携クリティカルパス」を完成することができました。

このパスの利点は、入院が3泊4日と短く、働き盛りでなかなか入院できない方にとっては、理想的だと思います。本院と中部病院が管理病院として、検査や運動指導、栄養指導などを行い、その後は、毎月かかりつけ医で定期受診していきます。半年後に再度管理病院にて総合評価するというシステムです。近年、メタボ検診など生活習慣病がますますクローズアップされています。皆様のお知り合いの方などいらっしゃいましたら、是非勧めてみてください。

今後も自己学習や研修などに参加し、院内看護師の糖尿病教育の向上と、患者様、ご家族によりわかりやすい指導ができるようがんばりたいと思います。

#### <糖尿病看護グループ>

5東・黒木、4東・持原、6東・堺  
内科外来・田中、4西・高橋



# こんにちは! 栄養管理科です



原副院長と栄養管理科のメンバーです

## スタッフ

副院長  
兼栄養管理科部長  
原 誠一郎  
管理栄養士 4名  
委託職員  
栄養士 6名  
調理師 13名  
パート職員 9名

## 主な仕事

- ・入院患者様への食事の提供
- ・入院・外来の患者様への栄養指導
- ・栄養管理計画書に基づく個別栄養管理

- 入院患者様には、医師の指示で一般食か特別治療食のどちらかをお出ししています。

### 一般食

日常の家庭食と同じような食事ですが、ほかに流動食や三分・五分粥食、全粥食等があります。

### 特別治療食

食事療法を必要とする病気の治療のための食事です。例えば、糖尿病、心臓病、腎臓病、肝臓病、消化器の手術後の食事などです。

- 1階の「栄養相談室」では、毎週(火)(金)10時から糖尿病教室を開いており、医師・薬剤師・看護師・管理栄養士が交代で治療や自己管理について丁寧に説明します。

また、いつでも食事療法についての相談をお受けしていますので、ご遠慮なく来室されるようお待ちしております。

- 患者様個別の栄養管理を行っています。栄養状態の良否は病気の回復を左右しますので、全ての患者様の入院時栄養管理計画書を医師、看護師と協働で作成しています。また、栄養状態低下の早期発見と早期対応のためのNST活動(栄養サポートチーム)を行っています。

## 地産地消に取り組んでいます

下の写真は、宮崎産の食材を利用したメニューです。

- ★千切り大根炊き込みご飯
- ★ばくだん(魚のすり身揚げ)
- ★ピーマン和え物
- ★しいたけ汁





## 県立日南病院が取り組む 医療安全全国共同行動 医療安全管理室 田中茂子

今、医療界では、医療安全推進のため、日本病院団体協議会・日本医師会・日本歯科医師会・日本看護協会・日本臨床工学技士会・日本病院薬剤師会が全国の医療機関に呼びかけ、医療安全全国共同行動(以下、共同行動という。)という8つの行動目標に対する活動を行っています。共同行動の8つの行動目標には、

- 1 危険薬の誤投与防止
- 2 周術期肺塞栓症の防止
- 3 危険手技の安全な実施
- 4 医療関連感染症の防止
- 5 医療機器の安全な操作と管理
- 6 急変時の迅速対応
- 7 事例要因分析から改善へ
- 8 患者・市民の医療参加

があります。

これまで事故が発生してから対策や取組みを考えていましたが、この活動は起こる前に対策を考え、他の施設がすでに行っている成功事例などの情報を共有し、他の医療現場で生かすなどのメリットがあると言われています。

県内では、5施設が参加登録をしています。今回は、当院が登録している行動目標の中から臨床工学技士と共に取り組んでいる「行動目標5:医療機器の安全な操作と管理」の中の「輸液ポンプ・シリンジポンプ(以下、ポンプという。)の安全管理」について紹介したいと思います。

平成19年度、当院のポンプ関連のインシデントは、流量設定関連12件、電源関連5件、その他1件でした。ポンプは、投与量や注入速度を管理する薬剤に使用されるため、急速投与や過剰投与の影響は重大な事故へと繋がる可能性があります。そこで平成20年に不具合の発生やインシデントの減少を図ることを目的に取り扱う機会の多い看護職全員を対象にポンプの研修を実施しました。

方法は毎週2回、約3ヶ月間、事前予約制とし、各10名程度の定員で開催。時間は日勤業務終了後に臨床工学室にて1時間程度ポンプや資料を基に臨床工学技士が説明や演習を行いました。

結果、休職中のスタッフを除いた看護職の82%が参加し、研修後3ヶ月間におけるポンプに関するインシデント報告はなく、研修前に修繕依頼のあったものの中で23件中19件が使用方法に問題があったものが、研修後は9件中3件に減少していました。

研修終了後のアンケートでは、「ポンプの勉強会をしているが忘れていたことがあった。」「患者様に直結することなので毎年行って欲しい。」「細かい部分まで知らなかったので勉強できて良かった。」「小グループで質問もしやすく良い学習会だった。」などの意見がありました。課題として、継続して理解が出来るかの評価を行い、定期的な研修会の開催を実施していく必要性を痛感しました。

平成21年度は、昨年と異なり、共同行動の中で奨励される対策のうち「人間サイドへの対策(人間の品質保証)」の中の人材育成として「ポンプを適正に操作できる知識と技能を備えたスタッフを育成する体制を作るための指導者を養成する。」を目標に院内認定制度を設ける研修を行うことにしました。

方法は、各部署から推薦や希望者3名(合計21名)の看護師を選出し、操作手順のCDや臨床工学技士が作成したテスト問題を1か月前に配布、ポンプについての講義や使用時の操作・確認の実技を実施し、その後ペーパーテストや実技テストを100点になるまで施行しました。ここで養成した指導者が必要時に各部署でスタッフ育成のための研修活動を行うこととなります。

今後、平成20年の全看護師を対象にした研修と今年実施した認定制度による指導研修の効果が、インシデント報告や修繕依頼件数などを低減させているか調査していきます。安全な医療環境を提供できるようにすることが医療に関わる専門職としての責務と考えています。



学習会の様子です



実技テストの様子です

# みなさんのご意見コーナー



当院では、患者さんのより良い医療環境づくりをめざして、患者さんやご家族などの来院者の方からご意見を伺い、それらへの対応を公表しています。ご意見の対応に係る公表は、皆様方との信頼関係を築く上で大変重要なことと考えていますが、個人を中傷するものや具体的な内容の記述がないものは回答できない場合もあります。

皆様の具体的で、建設的なご意見をお待ちしております。

## みなさんのご意見への回答(平成21年5月~21年7月分)

○弟の容体が悪いと連絡があり、10年ぶりに宮崎に帰って参りました。その日の深夜に病院に行き、面会することができました。

院内に入る時に病室を尋ねると、女性がパソコンをたたき、紙に病棟と部屋番号迄を書いてくださいました。

警備員、電話交換だと言われて、私はびっくりしたところです。

最近、都会では、いろいろと大きな事件が起こっていますが、もしも事件が発生した際、女性で対応できるのでしょうか。他に一人男性もいましたが、病院局の方は何も考えられないのでしょうか。

私としては、深夜の女性警備員は、無理ではないかと思う次第です。

●当院では、性別による職業の適否は考えておりません。

なお、今回ご意見にあります警備業務につきましては、もしもの場合に、機敏に警察や消防等関係機関に連絡することが必要となりますが、これについて、特に女性ではできないという理由は見あたらず、性別による区分けは、職業選択の自由からも適切ではないと考えております。

ご理解をお願いします。

●ご意見ありがとうございました。

栄養管理科では、医師や管理栄養士が毎食患者さんと同じ食事を検食し、量や味、盛り付けや食材の使い方の中から総合的にチェックをして患者さんに食事をお出ししています。

そして、定期的に献立検討会を開き、食事そのものが治療手段となる特別治療食も含めて、少しでもおいしく喜んで食べていただけるようにメニューの改善や使用食材の検討を行っているところです。

また、栄養管理科と看護部が協力して、暖かい温度で食べていただきたい料理は暖かく、逆に、冷たい方がおいしい料理は冷たくという適温で食事をお届けできるようにサビス改善にも努めております。

今後とも、ご指摘のようなご意見があることを肝に銘じて、さらなる改善ができるように努めて参ります。

○もっとうまい飯食わせろ。



○診断書をもらいに来たのですが、1週間から10日間かかるということで、12日間位余裕を持って取りに来たのですが、まだ出来てなかった。もう少し誠意を持って欲しいものですネ。

●お待たせて申し訳ありませんでした。

医師の業務上、診断書の作成に日数を要する場合がありますので、受け取りに来られる前に、出来ているかどうか電話でお問い合わせいただくと助かります。

※ここでの掲載は頂いたご意見の一部です。

※皆様からのご意見に対する回答は、院内掲示板または病院ホームページに掲載しています。

## 当院の基本理念及び基本方針

### 基本理念

- 患者本位の病院
- 高度で良質な医療を目指す病院
- 地域社会に貢献する病院

### 基本方針

- 患者の人権を尊重し、安全で信頼・満足していただける医療の提供に努めます。
- 常に研鑽に努め、医療水準の向上に努めます。
- 医療の面から、住民が安心して暮らせる社会づくりに貢献します。



# 外来診療日程表

県立日南病院 平成21年11月

## 2階

小児科	月	火	水	木	金
一診	澤	澤	澤	澤	澤
二診	甲斐	甲斐	甲斐	甲斐	甲斐
検診日		午後2時から			午後2時から

耳鼻咽喉科	月	火	水	木	金
診察	中西	中西	中西	中西	中西
検査日		午後		午後	午後
手術日	○		○		

眼科	月	火	水	木	金
一診	斉藤	斉藤	斉藤	斉藤	斉藤
二診	松本	松本	松本	松本	松本
検査日		午後	午後		午後
手術日	午後			午後	

泌尿器科	月	火	水	木	金
一診	新川	新川	新川	新川	新川
二診	上別府		上別府	上別府	上別府
検査日	○		○		
手術日		○			

皮膚科	月	火	水	木	金
一診		☆			☆

☆宮崎大学医学部の医師による診察

産婦人科	月	火	水	木	金
一診	川越	川越	川越	川越	瀬戸
二診	瀬戸	山内	山内	瀬戸	山内
手術日		○	○		

\*初診は月・水・金曜日になります。 \*火・木は予約再診のみ  
\*女性外来「わかば」はしばらく休診

## 1階

内循環器科	月	火	水	木	金
内科初診	原	原	原	原	原
循環器科初診	三嶋	西山	三嶋	田中(充)	田中(充)
再診	田中(充)	松本	田中(充)	三嶋	
再診	平塚	平塚	田中(弦)	松本	松本
再診	田中(弦)	石崎		石崎	三嶋
再診	石崎	村山	パースメーカー 外来(奇月) 三嶋田中(充)	村山 (午後)	平塚
内視鏡					押川
透視	松本	松本	松本	松本	松本
気管支鏡				平塚 田中(弦)	
心カテ 検査(午後)		三嶋・西山 田中(充)			三嶋・西山 田中(充)
心エコー		三嶋 田中(充)		西山	
急患(午後)	田中(弦)	村山	村山	西山	松本
パースメーカー 手術			三嶋・西山 田中(充)		

放射線科	月	火	水	木	金
診察		田中		柴	
検査日	○	○	○	○	○

外科	月	火	水	木	金
一診	市成	帖佐	田代	帖佐	市成
二診	峯		峯		峯
三診	中尾				
手術日	○	○	○		○
透視				○	
内視鏡		○		○	
ストーマ外来				第4木	

※外来手術(月曜日の午後)  
※ストーマ外来(第4木曜日 予約制)

脳神経外科	月	火	水	木	金
再診	新甫	奥	川添		新甫
初診	奥	川添	奥	○	川添
急患	川添	新甫	新甫	○	奥
手術日				○	

整形外科	月	火	水	木	金
一診	初診	益山	初診	松岡	初診
二診	松岡	三橋	松岡	三橋	益山
手術日	午後	午後		午後	午後

神経内科	月	火	水	木	金
診察			山下	塩見	

精神科 心療内科	現在休診中				
-------------	-------	--	--	--	--

## 編集後記

早いもので、もう10月も終わりです。今年は、年の始めから新型インフルエンザで病院も何やかやと対応に追われています。皆様も、是非、うがい・手洗い、咳エチケットの励行をお願いします。こういう状況ではありますが、今年も11月29日(日)に県立日南病院祭を企画することになりました。皆様方のご来場をお待ちしています。なお、新型インフルエンザの動向によっては、中止せざるを得ない場合もありますので、皆様のご理解をお願いします。

(広報編集委員会)

# 第11回 県立日南病院祭



(手術室ってどんなところ?)



(おしっこ検査でわかること)

**日時** 平成21年11月29日(日)

**10:00~14:00**

**場所** 県立日南病院エントランスホールほか

## ●医療コーナー

- ・手術室ってどんなところ?
- ・AEDの基礎知識と使い方
- ・生命誕生に関すること(妊婦体験等)
- ・ほら汚れがいっぱい
- ・おうちへかえろう(在宅介護支援)
- ・緩和ケア
- ・骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折について
- ・おしっこ検査でわかること
- ・飲み込みはスムーズですか?
- ・私は大丈夫かしら?(健診測定)
- ・腎臓移植パネル展
- ・X線機器パネル展示
- ・身体障がい者体験
- ・夢をかなえられたら(ビデオ上映)

## ●救急車試乗体験コーナー



## ●空飛ぶ風船コーナー



## ●得・とくコーナー

- ・バザー
- ・物産販売コーナー
- ・スタンプラリー



## ●みんなのコーナー

- ・子どもスケッチ大会作品展(油津小学校)
- ・職員総合作品展

## ●アトラクションコーナー

- ・コーラス、フラダンス、  
演劇、エイサー他



## ●宮崎大学医学部コーナー

## ●骨髄バンク登録会、日南保健所、 こどもいのち・つなぐ会出展

その他、アロマセラピー、生け花展など  
いろいろあります。

**みんな来てね!**



**主催** 県立日南病院祭実行委員会  
**後援** 日南市

【連絡先】 県立日南病院

日南市木山1-9-5

Tel 0987-23-3111 Fax 0987-23-5142